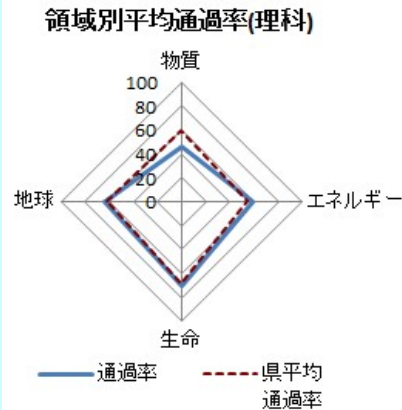
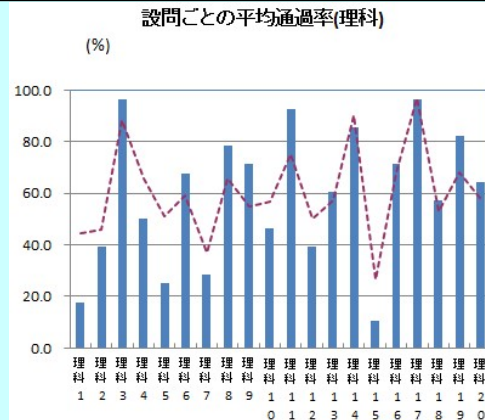


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.1%, 県 60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○今年度の調査から明らかになった課題  
 タイプⅠでは、「物の重さのはかり方(17.9%)」「つなぎ方の違いによる電流の強さ(46.4%)」  
 タイプⅡでは、「太陽の動きと影の関係(10.7%)」「水の温度と体積の変化と生活の関係(25%)」「物の重さと体積の関係(39.3%)」など、観察や実験の結果を問う問題の通過率が低い。理科用語を用いたまとめ方の指導が不十分であったこと、実験や観察を行ったことが理解につながっていないことが明らかになった。

重点課題

- 物の重さのはかり方、水の温度と体積の変化と生活の通過率が低い。重さと体積を捉えて考えることができていること、水は氷になると体積が増えることの理解が不十分であることが要因であると考え。
- 太陽の動きと影の通過率が低い。正午に影ができる位置を太陽の動きから推測することができていることが要因であると考え。

標準学力調査に向けた重点取組

- 実験や観察を行う際は、自分の経験や生活と結び付けて予測させる授業展開を仕組んでいく。また、実験や観察で分かったことを自分の言葉で丁寧にまとめていくことを指導し切る。
- 実験や観察などの具体的な体験を通して、実感を伴った理解を図ることができるように指導を行う。
- 既習事項の定着に向けて、ドリル学習を実施し、理解の定着を図る。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	・改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。			・授業研究を行う。(提案授業→協議)			
児童への取組						【検証】標準学力調査 目標値 市平均以上の児童80%以上		

既習事項の定着に向けたドリル学習の実施 (授業始め)